



2021年10月29日

各位

会社名 株式会社ジェイテック
 代表者名 代表取締役社長 藤本 彰
 (JASDAQ コード 2479)
 問合せ先 取締役 経営企画室長 村田 竜三
 (TEL 03-6228-6463)

第2四半期累計期間業績予想（連結）と実績値の差異 及び通期業績予想（連結）の修正に関するお知らせ

当社は、第2四半期連結累計期間（2021年4月1日～2021年9月30日）の業績予想に比べ同期間の実績値に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2021年5月11日に公表した2022年3月期通期業績予想（連結）を下記の通り修正しましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 2022年3月期第2四半期（累計）業績予想と実績値との差異 （2021年4月1日～2021年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 1,580	百万円 △21	百万円 △3	百万円 △25	△3円16銭
実績 (B)	1,427	△130	6	△1	△0円15銭
増減額 (B-A)	△152	△109	9	23	-
増減率 (%)	△9.6	-	-	-	-
前年同四半期実績 (2021年3月期第2四半期)	1,367	△39	0	△4	△0円60銭

2. 2022年3月期通期業績予想（連結）の修正 （2021年4月1日～2022年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 3,435	百万円 10	百万円 28	百万円 6	0円76銭
今回修正予想 (B)	2,977	△169	46	19	2円40銭
増減額 (B-A)	△458	△179	18	13	-
増減率 (%)	△13.3	-	64.3	216.7	-
前期実績 (2021年3月期通期)	2,771	△56	78	40	5円11銭

3. 差異が生じた理由及び通期業績予想（連結）修正の理由

2022年3月期第2四半期（累計）業績予想は、新型コロナウイルス感染症の再拡大への懸念による社会経済活動への影響は依然として残ることが予測される中、新卒テクノロジストを教育し早期派遣をしていく前提としておりましたが、感染症対策に係る緊急事態宣言の影響が色濃く、想定以上に営業活動が制限されたことで、特に新卒テクノロジストの稼働開始が2021年9月末までに全員稼働開始となることを当初の計画としておりましたが、その計画が2021年12月末まで後ろ倒しとなる見通しとなり、売上高が予想を下回りました。その結果、2022年3月期第2四半期（累計）実績値は、売上高及び営業損益が当初の予想を下回ることとなりました。

一方で、2022年3月期第2四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症に係る雇用調整助成金等の支給額110百万円の営業外収益が発生したため、経常損益及び親会社株主に帰属する四半期純損益は当初の予想を上回ることとなりました。

2022年3月期通期業績予想（連結）は、新卒テクノロジストの稼働開始が後ろ倒しとなることに加え、請負及び受託等の期中に収益を期待していた案件も開始時期が後ろ倒しとなることが影響し、第3四半期及び第4四半期の売上高は減少する見込みです。

販売費及び一般管理費に関しては、テクノロジストの技術力向上に向けた研修カリキュラムや設備の改善をはじめとする教育環境の強化に注力している中、雇用調整助成金の特例措置が延長されることを受けて、稼働開始が遅れているテクノロジストに対し新たな資格取得の支援など、今後の稼働開始や需要拡大に備えた技術力及び人間力のさらなる養成を進めております。そのため、販売費及び一般管理費は売上高の減少の中でも削減せず、当初の予定とほぼ同水準の825百万円で着地する計画としました。

以上の結果、通期の業績予想につきましても、売上高及び営業損益は当初の予想を下回り、営業外収益として雇用調整助成金収入が見込まれるため、経常損益及び親会社株主に帰属する当期純損益は当初の予想を上回る見通しとしております。

※なお、本業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報および合理的であると判断される一定の前提に基づくものであり、実際の業績は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、今後の新型コロナウイルス感染症の影響範囲が大きく変動する可能性があり、当社グループの業績に重要な影響を及ぼす事象が発生した場合、または業績予想の修正が必要と判断される状況となった場合には、速やかに公表いたします。

以上